

ベルマーク新聞 1月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表) 郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ https://www.bellmark.or.jp/

尾木ママと過ごした貴重な1日

オルタナティブスクールあいち惟の森でオーサー・ビジット



①子どもたちの輪に、あっという間に溶け込んだ尾木直樹さん。子どもと一緒にマシュマロを焼いた ②尾木さんを囲んで「はい、ポーズ！」 ③笑顔で子どもたちに語りかける尾木さん ④手作りの図鑑を手渡した低学年の子どもたち ⑤テレビなどでも活躍する尾木さんを目の前にして、子どもたちの目は輝いていた

「なかなかややこしい時代になったわよね。その中でもみんな元気に遊んで。感心しちゃう」

愛知県名古屋市にあるオルタナティブスクールあいち惟の森(青野桐子校長)で、教育評論家の尾木ママこと尾木直樹さんが語り始めました。本の作者が学校を訪れ特別授業をする「オーサー・ビジット」です。ベルマーク財団のソフト事業「教育応援隊」のひとつで、朝日新聞社との共催です。

「オルタナティブスクール」は、通例の学校の枠にとらわれず、独自の理念で教育を施します。惟の森は丘の上にある平屋の一軒家で小中学生27人が学びます。当日の12月13日、尾木さんは2時間も早く到着しました。普段の子どもたちの様子を見るためです。

ちょうど「自由活動」の時間でした。過ごし方は子ども自身が決めます。外で走り回ったり、室内で仲間とカードゲームをしたり。自分の興味を見つめ、好奇心を満たし、自立心の育成につながる活動です。

校庭に繰り出した尾木さんは、ししゃもやマシュマロを七輪で焼こうとしている子どもたちに歩み寄ります。すると枝に刺したマシュマロを差し出されました。一緒

に焼こうというのです。「まあ、うれしい」と尾木さん。顔をほころばせてしゃがみ込みました。

午後、いよいよ授業です。「みんなを見てると、小学校の行事を思い出したわよ〜。なんだと思う? うさぎ狩りよ〜」。滋賀県の山村で育った自身の思い出です。「学校裏の林で、ちりとりやバケツを持って音を出して前進。先にはネットが張ってあり、うさぎがひっかかるの」

そこから本題へ。尾木さんが事前にお願したアンケートで「この学校を選んだ理由」を聞いたところ、多かった回答は「先生が怖かったから」でした。

尾木さんによると、いま「不登校」と呼ばれる小中学生は20万人もいるそうです。「完全には休まない『行き渋り』の子どもも33万人いる」。その責任は大人にあると指摘した尾木さんは、「これからは子どもと大人がパートナーシップで生きていく時代」とも話し、「子どもをリスペクトすること」の重要性を訴えました。

休憩時間、控え室の尾木さんのもとに4人の子どもがきて、水族館の見学をまとめた手作り冊子「海の生きもの図鑑」をプレゼントしました。「こんな分厚いもの、よく頑張ったわね〜。宝物にするね」と褒められ、子

どもたちは少し照れくさそうに走って戻りました。

後半の授業で尾木さんは問いかけました。「いま国際社会で言われる『学力』って何のことだと思っ？」

答えは「生き延びる力」でした。「暗記やペーパーテストで100点取ることじゃないの」。新しい価値を創出する力、バランス力、自分を客観視する力、という三つの力から構成されているそうです。

これを惟の森にあてはめると、全校ミーティングで仲間と力を合わせてアイデアを出すこと、少数の意見にも耳を傾けて取り込むこと、毎週金曜日には次週の予定を自分で組むこと、などに該当します。つまり「実はみんなの毎日の活動が、ものすごくトレーニングになっている」と尾木さんは明かします。子どもたちは目を輝かせて聴き入っていました。

尾木ママ、とっても優しかったね!!



2022ベルマーク運動説明会 5、6月に12会場で限定開催

ベルマーク財団は2022年5〜6月に全国12会場限定でベルマーク運動説明会を開きます。新たに学校の担当になった方を主な対象とし、運動の理念や歴史、具体的なやり方などを説明します。

説明会はコロナ禍で2年連続で全面中止となり、今春は3年ぶりの復活です。以前は全都道府県で開催しましたが、感染拡大防止対策への配慮から、今回は会場を絞った限定開催としました。参加できるのは、会場のある都道府県の方に限らせていただきます。他の地域に

お住まいの方は、申し訳ありませんが、5月に財団HPにアップする予定の「バーチャル説明会2022」をご参照ください。説明会場でお話しする内容を掲載します。

具体的な会場など詳細は3月にあらためてお知らせします。1学年からの参加は2名に限り、該当する学校には4月に案内の往復はがきをお送りします。参加を希望する方は必要事項を記入しご返送下さい。開催地以外の学校にも、今回はHPを参照していただくようお知らせ

するはがきをお送りします。説明会は1977年に大阪で初めて開かれ、1984年以降は毎春、全都道府県で開催してきました。東日本大震災があった2011年は半数近くの会場で実施を中止するなど、時々の災害等に左右されたこともありましたが、長引くコロナ禍は前例のない事態をもたらしています。今後、感染状況などの事情が変わった場合は予定の変更もあり得ます。その際は財団HPなどで速やかにお知らせしますので、よろしくお願いいたします。

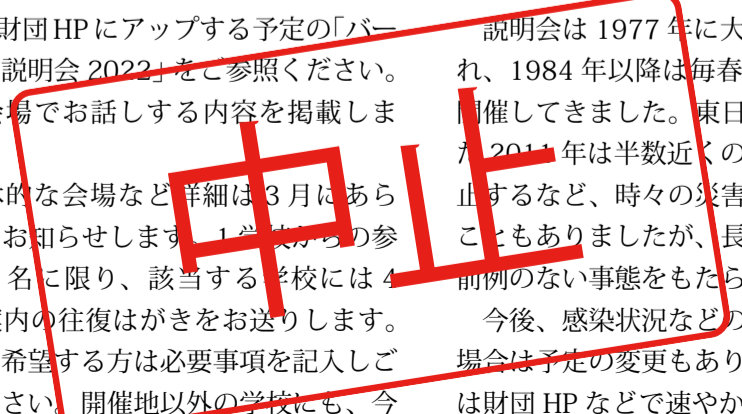


Table with 3 columns: 開催日 (Date), 場所 (会場) (Venue), and 会場 (Venue). It lists 12 dates from May 17 to June 10 across various Japanese prefectures like Tokyo, Chiba, and Osaka.

「へんてこを描こう」と宮西達也さん

高知・黒潮町立拳ノ川小でオーサー・ビジット

「みんな、へんてこを描きましょう！」
絵本作家・宮西達也さんの言葉に、少しげんそうな子どもたち。みんな恐る恐る、ペンを走らせます。

「ちょっと、めちゃくちゃ変にしたけど、いいかなあ」なんて自信なさそうな声も。でもそのうち、みんな調子に乗ってきました。「いいこと考えた!」「オバケ描いちゃお」「キャハハ」「馬の耳がこんなに多くなってしまったわ」……。

ある子が「カンペキや!」と自慢していると、後ろから見ていた宮西さんが指摘します。「完璧だけど、一匹やん。もっとたくさん描かなきゃ」

高知県黒潮町の町立拳ノ川小学校(上田壮校長)で12月3日に宮西達也さんの「オーサー・ビジット」がありました。本の著者が学校を訪れて特別な授業をする、ベルマーク財団のソフト事業「教育応援隊」のひとつで、朝日新聞との共同企画です。拳ノ川小は山あいの集落にあり、児童数16人の学校です。宮西さんは、実は12年前にも同小を訪れたことがあるそうで、校舎2階にある図書室の「宮西達也コーナー」に当時の写真と宮西さんの絵本が飾られていました。

授業の最初は読み聞かせ。スライドを映しながら自作を読みます。絵本『うんこ』の際には「うんこって、大きな声で



言ってみよう」とも。そして、反応を見て「みんな言っていない。特に後ろの大人」と指摘。やり直しでは、先生方も大きな声を張り上げました。

続いてワークショップ。段ボールに黒とオレンジのペンで、自分の思うままにキャラクターを描きます。それを今度は丁寧に切り抜きます。最後に、額の中にもうまく配置して貼ると立体的な「作品」が出来るのです。

「大きいものや小さいもの、どんどん

描いてください」と宮西さん。犬猫や熊、馬、魚、自動車、宇宙人、オバケ……。子どもたちは色々なものを描きます。宮西さんはみんなの間を回りながら励まします。「がんばれ。苦労しただけ作品がよくなるから」とも。

切り抜きが終わると、みんな額を持って宮西さんの前に並びます。「かわいいね」「すてきだよ」と言いながら、宮西さんは額の中に子どもたちが切り抜いたキャラクターを配置し、接着剤で固定し



ていきます。こうして、とっても個性的で素敵な16の作品が誕生しました。

最後に宮西さんはみんなに語りかけました。「絵って、少し構図を変えただけで、全然違うものになる。立体にすると、光と影も加わります。みんなも、ちょっと工夫することを覚えて、絵を描くのは楽しいなって思ってください。今日は楽しかったですか?」

「はーいっ!!」。とっても大きな返事が響きわたりました。

2年以上かけて集めた330万点を寄贈

ジブラルタ生命保険と松本ベルマーク大使

協賛会社のジブラルタ生命保険(ベルマーク番号15)が、全国の約800拠点で集めたベルマーク330万点を財団に寄贈しました。財団に一度に届いた寄贈マークとしては、恐らく過去最高の点数です。

財団が任命するベルマーク大使で同社執行役員の松本哲さん、コーポレート・クオリティ推進チームの阿部玲子さんと加藤幸治さん、周年事業タスクフォースの大西理恵さんと石神陽子さんの5人が12月10日、財団を訪れ、段ボール7箱にも及ぶマークを寄贈しました。箱に隙間なく詰め込まれたマークは社員の手によって仕分けされ、会社別に点数を計算してありました。

ジブラルタ生命保険は協賛会社になった2004年以降、全国の営業拠点や本社でベルマークを集め、ほぼ毎年、100万点程度を財団に寄贈していました。そんな折りのコロナ禍。外出制限もあって前回の寄贈から2

年以上が経ちましたが、社員たちは収集活動をずっと継続していたのです。「本社から呼びかけなくても、常に全国から自発的に仕分けされたマークが集まる。社内でベルマーク収集が根付いている」と阿部さん。

今回のベルマークが大量になったのには、もうひとつ理由があります。同社は2021年4月、創立20周年を迎えました。例年、毎年10月の第一土曜日を「国際ナショナル・ボランティア・デー」と定めて全国の社員による社会貢献活動に力を入れてきましたが、2021年は感謝の気持ちを込めて活動を拡大。1万1000人の社員が7~12月の間、組織の垣根を越えて様々なボランティア活動を展開しました。中でもベルマーク収集に取り組んだ社員は清掃に次いで2番目に多かったそう。「コロナ禍で集合での活動が難しい中、個人で出来る、ということが大きな要因だった」と松本さんは話しました。



④左から阿部玲子さん、加藤幸治さん、石神陽子さん、大西理恵さん、松本哲さん。オリジナルTシャツに着替えて
⑤財団の岡部敦郎事務局長にベルマークを手渡す阿部さん

今年もベルマークを持参

調布市職員有志が寄贈

東京都調布市の市職員が集めたベルマークが、今年も寄贈されました。城戸雅幸さんと山崎守さんが12月17日、この1年間に集めたベルマークを届けてくれました。

調布市では各職場や文化会館など100近い場所に回収箱を置き、職員や市民からベルマークを集め、毎年のように財団に寄贈しています。今年はコロナ禍でもあり、仕分け・集計は省略しての持参

でしたが、「コロナ禍の影響が良い方に作用して量が増えたと思う。ベルマーク収集はもうすっかり定着した感じがします」と城戸さん。

昨年まで主体だった市職員でつくるボランティアクラブがメンバーの退職などで解散し、今回の寄贈は有志から、という形に。でも職員の中には活動に興味を持ってくれた人もいます。今後も収集を続けられたらいいですね。



山崎守さん(左)と城戸雅幸さん。たくさんのベルマークを寄贈してくれました

日清フーズが「日清製粉ウェルナ」に社名変更

協賛会社の日清フーズ(ベルマーク番号24)は2022年1月1日に社名変更し、「日清製粉ウェルナ」になりました。ベルマークの扱いに影響はありません。

同社は、ファミリーブランド「マ・マー」の「サラダマカロニ」「スパゲティ1.8mm 300g」「スパゲティ1.6mm 300g」にベルマークを付けてくれます。

日清製粉
welna
日清製粉ウェルナ

昼休みも／4年生から全校に／1年生ペア特訓

一輪車講習会、岐阜県の黒川小・東白川小、長野県の南相木小で

ベルマーク財団のへき地支援ソフト事業、一輪車講習会が、コロナ禍に配慮した安全対策をとりながら3校で実施されました。

11月29日は岐阜県の白川町立黒川小学校。今年度3回目の講習会です。県中南部の山あいにある、児童数56人の学校です。講師は日本一輪車協会の公認インストラクター、佐藤彩香さんと高田朝日さん。世界大会などの優勝経験がある第一人者です。

模範演技の後、2学年ずつに分かれ、給食をはさんでみんなで練習しました。「姿勢はまっすぐ!」「足元を見ないで!」とアドバイスの声がかかります。

講師の指導の成果か、子どもたちはやる気に満ちていました。給食後の休み時間も運動場に出て、さっそく一輪車の練習をする子も。講習がすべて終わった後、児童代表が「初めて一輪車に乗れました。これからも練習を続けます」とあいさつしました。

翌30日は隣の東白川村へ。村立東白川小学校は1980年に3小学校が統合されて出来ました。児童数78人。村は「つちのこ」伝説があり、最近はコロナで中止していますが、毎年「つちのこフェスタ」も開かれます。

前日に続き、講師は佐藤さんと高田さん。この学校では以前から一輪車に取り組んでいる4年生だけが教わります。「14人いる4年生から学校全体に広げていければ」と伊佐治晃校長。さっそく「飛び乗り」や、全員で手をつなぐ「ループ」の技にとりかかりました。みんな、ほとんど休憩も取らず、熱心に指導を受けます。講師からは「上手にできる人と一緒に練習してみると、コツがわかって上達できます」というアドバイスももらいました。

一週間後の12月7日、佐藤さんと高田さんの講師ペアは長野県南相木村の村立南相木小学校へ。会場の体育館に真っ先に入ってきたのが、2人しかいない1年生の新海薫さんと三枝滯央さん。本日の主役です。

「一輪車とけん玉に力点を置き、年間を通して取り組んでいます」と担任の櫻井みさ子先生。講習は、ほぼ2人へのマンツーマン指導。年度末に発表する予定の、音楽にあわせた3分ほどの演技を繰り返し練習します。

講師提案の技も取り入れ、小さな体の2人は息を弾ませながら頑張ります。終わった後、新海さんは「だんだんうまくなってきた」、三枝さんは「発表までにもっと上手になりたい」と話しました。



上から白川町立黒川小、東白川村立東白川小、南相木村立南相木小

実験と工作で笑顔がいっぱい

岐阜・高山市立岩滝小で理科実験教室

12人の児童が次々と、教室で使う木製の椅子を両手で抱えながら、バタバタと床を鳴らし、体育館に飛び込んでくる。きょうは待ちに待った理科実験教室。

岐阜県高山市立岩滝小学校で11月30日、「NPO法人サイエンスものづくり塾エジソンの会」(華井章裕代表)の6人が登壇しました。教室は、ベルマーク財団のへき地校支援事業のひとつです。

細長い風船「ペンシルバルーン」が子どもたちの頭上に飛び、急に大きく破裂します。「わーっ」「キャーッ」。何もしないのになぜ? それはゴムを溶かす柑橘系の油を直前にちょっと風船につけるから。さらに、コップからこぼれ落ちない水、手のひらにのせた綿に火をつけると一瞬で消えてなくなる実験などが次々と登場。子どもたちは「なんでこうなるの?」と興味津々です。

一番の見せ場は液体窒素を使った実験。「マイナス196度もあるんだよ」とエジソンの会の華井さんが説明します。そこにつけた白菜は瞬間に凍り、たたくと粉々になってみんなびっくり。子どもたちも次々に凍った白菜を両手で挟み、たたきます。バナナを凍らせてトンカチがわりにしたクギ打ちにも挑戦しました。

教室の後半はものづくり。最初は万華鏡です。キラキラ光る小片やビーズなどを詰め、完成した万華鏡の穴をのぞき込みます。「わー、きれい」。顔と顔がほころびます。ほかにも、キラキラした細長いテープひもを何本もつけて作る「くるくるレインボー」などの工作にも挑戦しました。

教室の最後に子どもたちが感想を披露。笑顔で口々に「楽しかった」「面白かった」を連発しました。



「本の帯コン」入賞者決まる

ベルマーク賞に大阪の山岡みつきさん

キャッチフレーズやイラストで、本を選ぶきっかけをつくる「本の帯」。小学生が児童書に巻く「本の帯」をデザインする大阪子ども「本の帯創作コンクール」(大阪読書推進会、朝日新聞大阪本社主催)の今年度の入賞者が決まりました。17回目となった今回は、13都府県の299校から計1万30点の応募があり、115点の作品が入賞しました。

ベルマーク賞が贈られたのは、大阪府茨木市の市立茨木小学校4年、山岡みつきさん。中学年の課題図書のひとつ、「ラグリマが聞こえる—ギターよびげ、ヒロシマの空に—」(ささぐちともこ著、汐文社)の帯を作りました。広島への原

爆投下の際に爆心地近くで見つかり、後に修復された「被爆ギター」を題材にした児童文学です。「ラグリマ」はスペイン語で「涙」を意味します。

山岡さんの帯には「広島への涙の二重奏」というコピーと「原爆の怖さと音楽の素敵さが分かりました」との感想も記されています。普段からよく本を読むという山岡さん。好きなジャンルは「怖い気持ちになる本」で、図書館に一人で行くこともあるほど本が好きとのことでした。



ベルマーク仕分け集計 水戸社協で講習会

茨城県水戸市の市福祉ボランティア会館で12月13、20日、市社会福祉協議会(社協)主催のベルマーク仕分け・集計の講座があり、12人の市民が参加しました。13日はベルマークの仕組みや援助内容、作業上の注意などを学習。20日は本物のベルマークで作業し、約1時間で2600点余を集計しました。講師はベルマーク財団から派遣しました。社協では今後、自前で集めたマークを市内の学校に寄贈するためのボランティアサークルを立ち上げたいとしています。



財団見学、2年ぶり 「生涯続けたい」

コロナ禍でしばらく途絶えていた財団見学が、約2年ぶりに実施されました。神奈川県相模原市の富成啓子さんが12月27日、娘の市立南大野小学校1年、和葉さんと財団を訪問しました。

「趣味はベルマーク集め」と話す啓子さんは、生涯収集を続けたいと考えているそうです。お子さんが卒業すると学校とは疎遠になりがちですが、公民館を拠点にすれば続けられるのでは、という話になりました。「公民館でサークルのような形で、ボランティアが出来たら生きがいにもなります」と話してくれました。



授業、遊び、読書、バス移動…支援活用してます

へき地校、東日本大震災被災校からメッセージ



ベルマーク財団が支援したへき地校、東日本大震災被災校からお礼のメッセージが届いています。参加団体の活動と寄贈マークによって支援は実現しました。届いた写真と一緒にまとめてご紹介します。



まずはへき地校支援の対象校から。北海道足寄町の①**足寄町立足寄中学校**からは、支援で贈ったタイマーを数学の授業で使う写真が届きました。歌手の松山千春さんの母校です。厳寒期の今、「雪はほとんど降りませんが、ただひたすら寒い」と村尾教頭。生徒たちはスクールバスで通っています。

岩手県の②**八幡平市立田山小学校**からはテントを使用している写真が届きました。市の陸上競技会や校内マラソンで重宝したそうです。スキージャンプの小林陵侷選手の出身地で、田山小でもスキーの校内大会で子どもたち全員がジャンプにも挑戦するそうです。



2011年に発生した東日本大震災の傷は、今も完全に癒えてはいません。財団は今後も被災地に寄り添います。

岩手県の③**宮古市立赤前小学校**はシュレッダーと



SDGsに関する書籍を希望。本を読む子どもたちの写真が届きました。震災時は地域の避難拠点だった同校ですが、今の児童数は28人。来春からは近くの市立津軽石小学校に統合されるそうです。

④**大船渡市立盛小学校**はブルーレイディスクプレーヤー、CDラジオ、カラーリングなどを子どもたちが元気に使っています。もうすぐ創立150周年。イベントを企画する準備会を立ち上げるそうです。

福島県の⑤**富岡町立富岡第一・第二中学校富岡校**は扇風機、ハンドボール、ソフトバレーボール、ボール整理棚、ライン引きなどの備品をそろえました。原発事故による避難指示で移った先の「三春校」と、指示の解除後に地元で再開した「富岡校」とに分かれていましたが、2021年度末に富岡に一本化されます。鈴木博教頭によると、扇風機はコロナ禍での換気にも役立っています。



ベルマーク財団は東日本大震災被災校に児童・生徒の移動手段としてのバス代も支援しています。学校は物品の援助かバス代かを選ぶことができます。

福島県の⑥**川俣町立山木屋中学校**は、11月に実施し

た猪苗代方面への見学学習にバス代を活用。全校生徒9人が猪苗代湖の観光船に乗ったり野口英世記念館や水族館などを訪問したりしました。震災時に山木屋地区に出された避難指示は2017年に解除されましたが、帰還した住民は以前の約4割だそうです。

宮城県の大鹿半島にある⑦**石巻市立東浜小学校**は、農業体験と宿泊研修にバス代を利用。全校児童5人が畑で芋を掘り、蔵王町で森のハイキングや調理実習などに取り組みました。東浜小は来年度、6年生2人だけとなり、その2人が卒業したら閉校の予定です。

宮城県中学校長会から届いたバス代補助の報告書には2つの中学校の実例が写真と共に添えられていました。

⑧**石巻市立北上中学校**は1年生13人の職場訪問に活用。新しい形の農業に取り組む会社と法人に行きました。教務の高橋秀成先生は「働く人の姿を実際に見て、農業の将来に対する展望や課題を知ってほしい」

⑨**気仙沼市立鹿折中学校**は部活動の新人大会参加にバスを利用。市内の他の中学や、南三陸町まで行ったチームもあったそう。「生徒たちは元気にベストを尽くしてくれました」と教頭の石田康之先生は言います。

ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト(敬称略)

〈マーク寄贈者〉 11月21日～12月20日

▼北海道 (株)ドコモCS物流推進部札幌ロジティクスセンター 北村弥生 栗田会計事務所 山下雅宏 川口聡子 鈴木利恵子 高橋朋子 松田千枝 金子浩司 岸篤子 酒井笙子 佐藤美穂子 富樫美智子 松田めぐみ 匿名希望
▼青森県 紺野▼岩手県 イオンスーパーセンター 芳組 吉田和晃 川端香子▼宮城県 仙台育英学園高IB cohort7 大島健介 齋藤久美子 佐藤ゆきの 明治安田生命保険(相)仙台広瀬通営業部▼秋田県 村上ひとみ▼福島県 日本テキサス・インスツルメンツ合同会社津工場 藤倉コンポジット(株) 相良蘭子▼茨城県 フレンドハート小林海香 ジブラルタ生命保険(株)つくば支社下館営業所一同 藤田和男▼栃木県 木村紘子 内田直子 石川和良 匿名希望
▼群馬県 上原美恵子 大根美鈴 損害保険ジャパン(株)群馬支店 群馬県立前橋西高 濱田結香▼埼玉県 金子紗也 北沢すみ子 清水ちひろ 松井恵 小幡優巳子 中西美里 大渡歯科 高橋武雄 田原純子 特定非営利活動法人サポートあおい生活支援センターみんと 内藤美子 平塚百代 藤井 藪陽一 匿名希望▼千葉県 小山田歩 近田 仙波美保子 立川八々子 山本清美 石川真理 榎本一男 小林綾子 田畑淳 宮本知子 山本けい子▼東京都 梅津葵 (有)光洋 味の中華綿徳 荒井和子 大井貴子 大田区立梅田小PTA 太田千佳子 (株)安藤大石 (株)サンコーデバイス (株)栃木屋 川上洋一 木村弘 坂本宏美 竹澤一能 土屋直子 東京東信用金庫篠崎支店職員一同 直江成子 長谷川 平山雅美 藤原克子 八木尚子 (公財)日本ユニセフ協会 青木美穂 市川佳世子 上田優子 内田美樹 (株)ジェー・シー・スタッフ 児島美花 小宮山恵理子 さうらべ 東京海上ビジネスサポート(株) 中山香緒里 日本基督教団小金井緑町教会 日本生命保険(相)

代理店サポートセンター 平松清美 平村冨妃 福井翼 (有)光洋 J&J愛をささやく 秋葉真知子 浅井 朝倉りき子 有賀鞠子 奥平淳子 尾島清美 神尾供似 小林直 杉並区立天沼小PTA 角田優 大東建託(株)品川支店 タナカダテヒデノリ 玉井千代子 調布市役所職員有志 西川美和子 蕪澤慶也 羽田恵美子 原堀内きよ 宮坂和子 矢島亜紀 山崎麻紀子 山田こずえ ジブラルタ生命保険(株) 匿名希望▼神奈川県 五十嵐友里・五十嵐絵理 尾崎満 駒形洋子 下村澄子 鈴木恵子 千葉典子 なかまゆ 根本京子 野田圭司 吉田文子 カープス井細田 石黒琢一郎 岸 倉田トミ 佐藤 丸山美栄子 秋間佐治子 鶴浦文子 加藤悦子 キヤノン(株)川崎事業所 塩島えり子 湘南新聞販売(株) 田所啓子 西村和子 吉田俊二 (公社)スコレ家庭教育振興協会 匿名希望▼新潟県 鈴木ひとみ 地域密着複合施設わしま NPO法人ひまわりクラブ 山口▼富山県 大阪屋ショップ・キョーエイ・まるまん 銀の車輪▼山梨県 立川さつき 立川千鶴▼長野県 酒井正泰 佐藤靖 堀内陽子 松倉幸夫 渡邊宏美 鶴田智子 山本史 匿名希望▼岐阜県 笠松町松枝放課後児童クラブ「まつぼっくらぶ」 合渡小 佐野博江 匿名希望▼静岡県 岩崎 島中将也 望月敦子 森川直美 匿名希望▼愛知県 (株)デンソー (株)エルドラド ナックオートサービス 神谷敦子 土橋強 中嶋友香 はあと薬局 齋藤丸枝 岩本恵子 大垣紀美 神戸学園ひなご幼稚園 橋本いづみ 林秋子 堀川美和子 加藤純子 (株)SS 県立愛知看護専門学校 小林貫嗣 堀部悦子 松森智奈美 明治安田生命保険(相)豊川営業所 横山奈未子・瑛都 匿名希望▼三重県 塩津恵美子 中野ひで子 匿名希望▼滋賀県 住友生命保険相互会社滋賀支社 濱田ゆり子 ローズキヤッツ 北川千代子▼京都府 紙芝居「ことわ

野田美奈子 八木秀子 山本和子 山中凛 竹内雅子 田代雄二 中尾幸重 中村文香 山田厚子 匿名希望▼大阪府 池田ゆい 日本パレットプール(株) 一日一分プラス 上田美恵 大西久子 塩崎純子 杉村運輸(株) 野元克美 橋本健一 平井 大西祐子 伊藤光子 介護老人保健施設ベルアモール 加藤紀子 (株)八代塗装 杉山久美子 大同生命保険(株)営業企画部業績課一同 匿名希望▼兵庫県 「スナッグゴルフ大会 in 三木市」出場選手と関係者 今西正樹 大福 播磨内陸医療事業組合立播磨看護専門学校自治会 萩野智子 前田直希 前畑美智子 鎌田りえ子 福井恵子 瀬上文乃 匿名希望▼奈良県 長嶺明日香 宮崎新嗣 匿名希望▼和歌山県 東野静和▼鳥取県 匿名希望▼岡山県 眞野なぎさ 宗政満明▼広島県 天野祐子 檜川美鈴 佐々木和枝 匿名希望▼香川県 (公財)高松市国際交流協会▼愛媛県 ベルポラ愛媛 まどんなロッソ▼福岡県 藤まさみ 坂本玲子 日本生命保険(相)契約管理部 匿名希望▼長崎県 永谷開▼熊本県 中原早季子 岡林かいと 熊本市立下益城南中 サンロード(株) 匿名希望▼大分県 井上義雄 上坂美智代▼鹿児島県 濱田隆弘▼Reiko 飛松大陸 島 森雄一郎 河合智恵子 鈴木奈穂子 高梨恵▼無記名=85件

〈友愛援助申し込み〉 12月1日～12月31日

◆山形県 西川中(西川町)◆埼玉県 まつたけ幼稚園(行田市) 潮止小(八潮市)◆千葉県 上本郷小(松戸市)◆東京都 綾瀬小(足立区) 第二松江小(江戸川区) 第四小(東大和市)◆神奈川県 山崎小(鎌倉市) 鶴沼小(藤沢市) 城南中(小田原市)◆新潟県 宮内中(長岡市)◆岐阜県 駄知小附属幼稚園(土岐市)◆滋賀県 青山中(大津市)◆兵庫県 大社中(西宮市) 浜の宮小(加古川市)◆山口県 長城小(山口市)

大台達成校

12月		
石井小	宇都宮市	6,002,765
武生西小	福井県越前市	6,007,426
旭小	千葉県柏市	5,011,344
大谷戸小	川崎市中原区	5,027,575
朱雀第四小	京都市中京区	5,012,546
下鴨中	京都市左京区	4,022,939
加古川中	兵庫県加古川市	4,022,093
高松小	和歌山市	4,020,987
青堀小	千葉県富津市	3,008,172
大島南央小	東京都江東区	3,003,356
つばさ小	さいたま市北区	2,012,382
後地小	東京都品川区	2,003,460
笠間小	横浜市栄区	2,021,030
相原小	名古屋市緑区	2,001,180
小野小	山口県防府市	2,026,043
あすみが丘小	千葉市緑区	1,000,504
中山小	横浜市緑区	1,016,070
陽だまりこども園		
	名古屋市名東区	1,007,229
南立誠小	津市	1,000,259
邑久幼稚園	岡山県瀬戸内市	1,016,975
高千帆小	山口県山陽小野田市	1,042,262
鑄鏡司小	山口市	1,004,779
林田保育園	香川県坂出市	1,000,421
相知小	佐賀県唐津市	1,453,308